

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 4 月 6 日現在

機関番号：37102

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2010～2011

課題番号：22830061

研究課題名（和文） 日本自動車企業の新興諸国市場戦略と生産システム

研究課題名（英文） After Lean Production System: The Impact of Emerging Markets

研究代表者

宇山 通 (UYAMA MICHIRU)

九州産業大学・経営学部・講師

研究者番号：50584041

研究成果の概要（和文）：生産性、品質、製品多様性を高水準で同時成立させる生産システムは、日本自動車企業の競争力要因と論じられてきた。ところが今日日本自動車企業は、車種の削減（製品多様性の低下）へと動きはじめた。これはなぜか。本研究の解答は以下の通りである。主たる市場が低価格を最も重視するアジア市場へシフトし、また主たる競争相手が低コスト生産に強い現代自動車や VW にシフトした。よって日本自動車企業は、低コストを重視した生産システムの構築を迫られているのである。

研究成果の概要（英文）：Until recent years, Japanese car companies had enhanced productivity, quality and product diversity at a time. As a result, they became internationally-competitive companies. But they begin to reduce product diversity, today. What accounts for this change?

One is that the main market is shifting from Japanese or North American market to Asian market in which low-price cars are preferred. And the other is that Hyundai, VW are tough competitors for Japanese car companies. The competitors are good at low-cost production.

交付決定額

(金額単位：円)

|         | 直接経費      | 間接経費    | 合計        |
|---------|-----------|---------|-----------|
| 2010 年度 | 1,240,000 | 372,000 | 1,612,000 |
| 2011 年度 | 1,140,000 | 342,000 | 1,482,000 |
| 年度      |           |         |           |
| 年度      |           |         |           |
| 年度      |           |         |           |
| 総計      | 2,380,000 | 714,000 | 3,094,000 |

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学

キーワード：生産システム

## 1. 研究開始当初の背景

トヨタやホンダが、これまでの強みである多品種生産を捨てようとしていることに、強い疑問をもった。

日本自動車企業の新局面をむかえているかもしれないという問題関心であった。

## 2. 研究の目的

日本自動車企業の新局面の展開を論じ、そこに今日の少品種化の動きを位置付けること。

## 3. 研究の方法

生産システムの転換の要因として、市場、工場（生産拠点）、競争に着目し、これら3点について通時的考察を行った。

#### 4. 研究成果

(1)~(3)に分けて述べる。日本自動車企業としてトヨタを取り上げる。

なお図の出所は「記入例」において省略されていたため、本報告書においても省略する。

##### (1) 市場の変化

###### ① プレゼンス

日本、北米からアジアへとシフトしてきている（図1）。

###### ② 多様化

日本市場が最も早期に多様化し、多様化の程度も極めて大きい。北米、中国がそれを追ってきている（図2、3、4）。

図1 トヨタ車地域別販売台数の推移

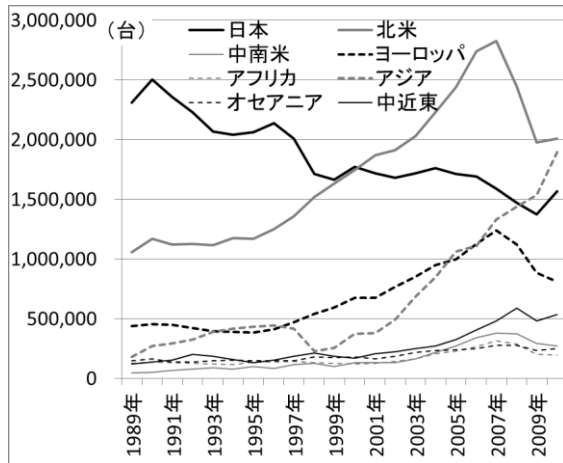


図2 日本におけるトヨタ車車名別販売台数の推移

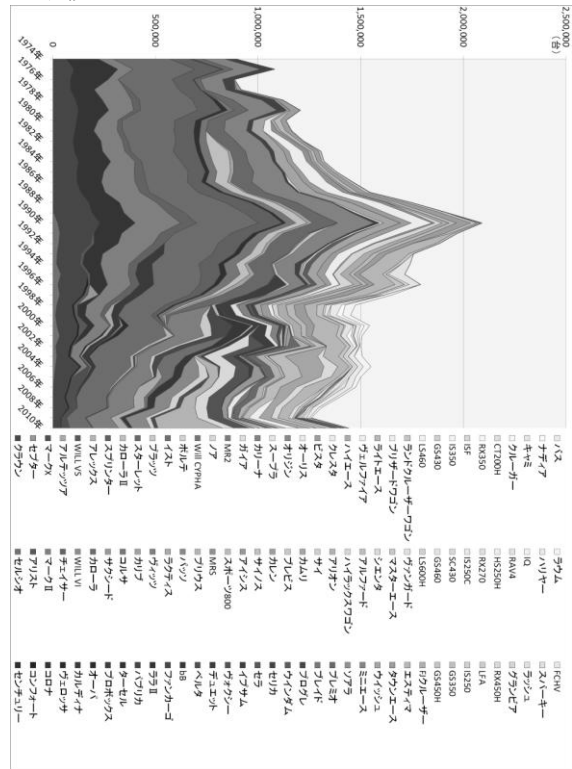


図3 米国におけるトヨタ車車名別販売台数の推移

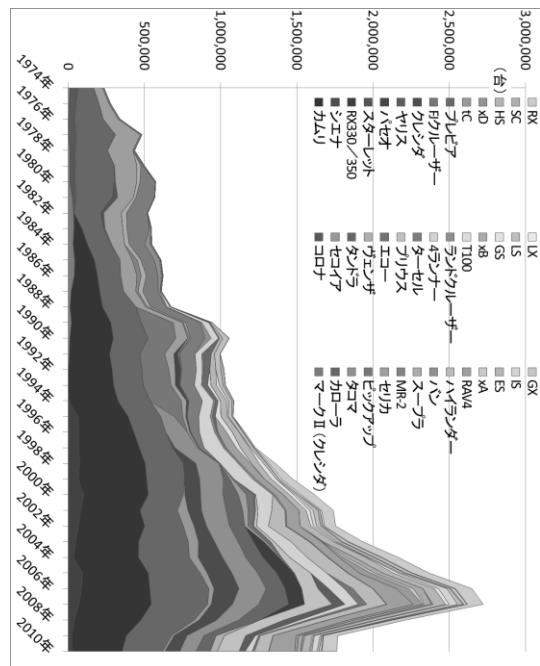
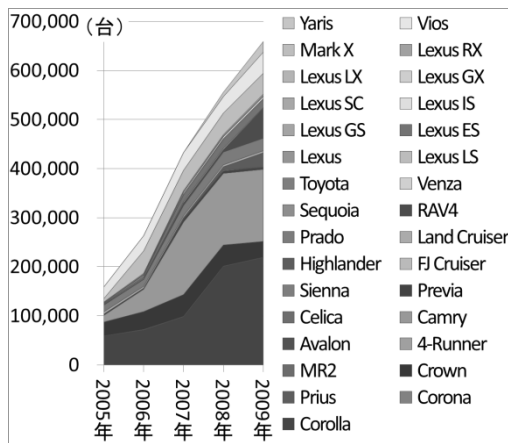


図4 中国におけるトヨタ車車名別販売台数の推移



(2) 工場の変化

日本工場のみが多品種生産の拠点であり、またその割合を高めている (図5, 6, 7)。

図5 日本におけるトヨタ車車名別生産台数の推移

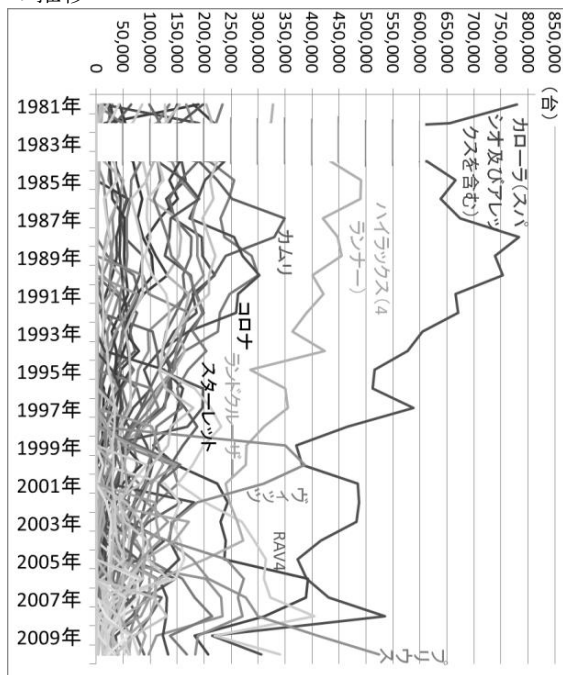


図6 トヨタの北米車名別生産台数の推移

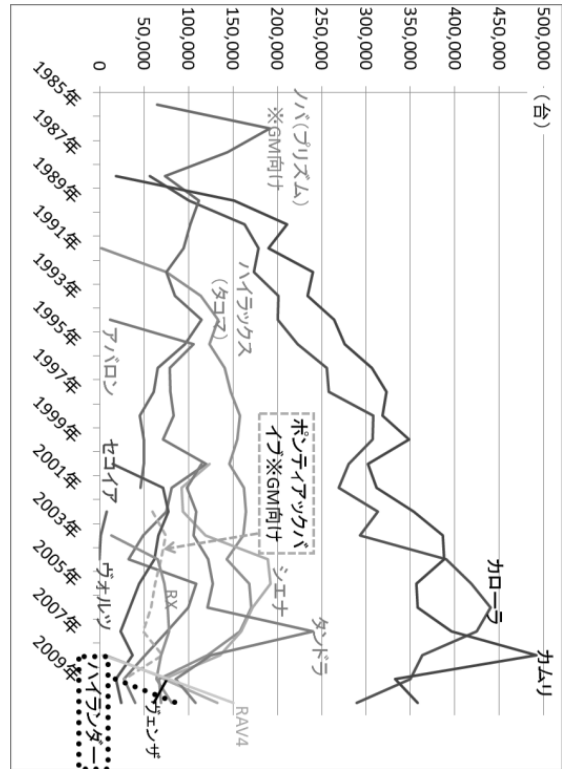
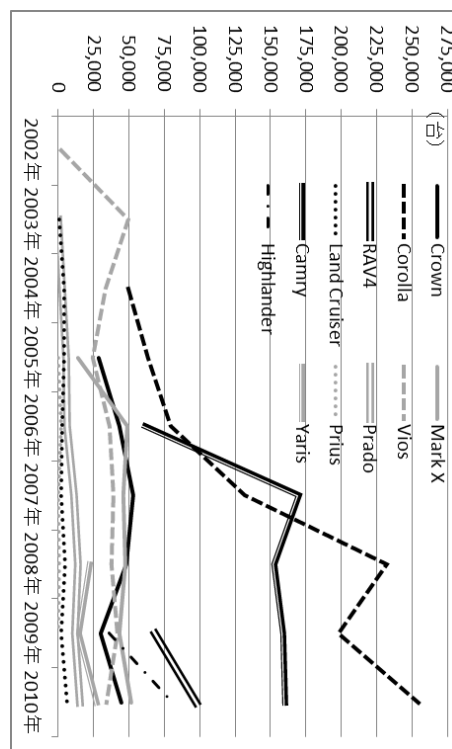


図7 トヨタの中国車名別生産台数の推移



(3) 競争の変化

トヨタは日本市場では圧倒的競争力を発揮している (図8)。北米市場ではトップクラスの競争力を発揮しており、ライバルは米国企業である (図9)。中国市場ではVWに大差

をつけられ、現代自動車にも苦戦している(図10)。

図8 日本市場における企業別販売台数割合

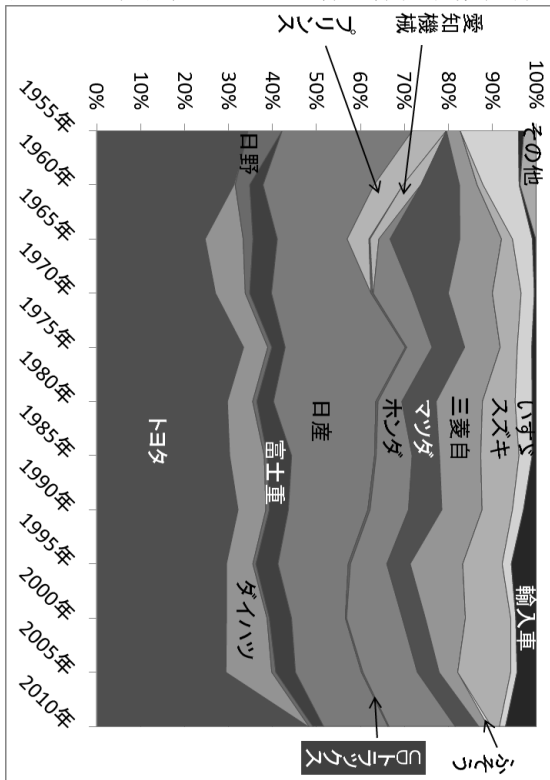


図9 北米におけるグループ別販売台数

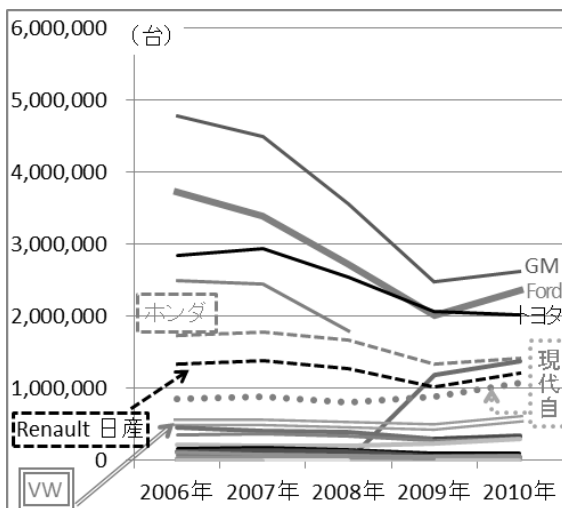
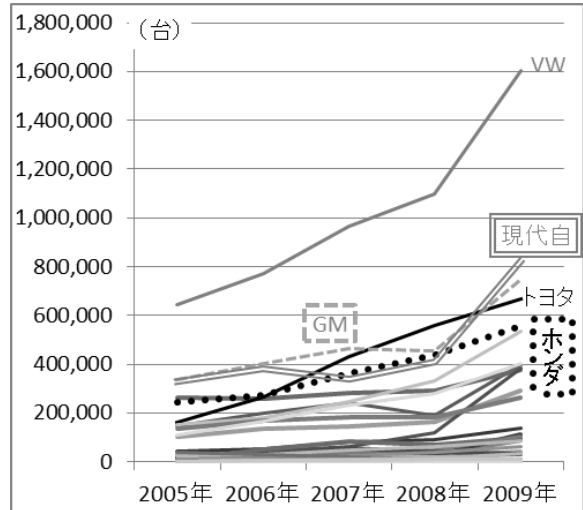


図10 中国におけるグループ別販売台数



(4) 総合

日本市場、北米市場で高い競争力を発揮する生産システムであっても、最重要市場となりつつあるアジア市場では十分な競争力を発揮できていない。市場と競争のこうした状況がトヨタに対し、生産性(コスト)、品質、製品多様性の全てに優れた生産システムから生産性(コスト)を特に重視した生産システムへの移行を迫っている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

- ① 宇山通、市場・競争の変化と生産システムの新局面——トヨタを事例とした分析——、経営学論集(九州産業大学)、第22巻第3号、査読無、2012、117-136

〔学会発表〕(計1件)

- ① 宇山通、市場・競争の変化と大量生産の新局面——トヨタを事例とした分析——(単独報告)工業経営研究会西日本部会(会場:大阪成蹊大学)2011年1月22日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宇山通 (UYAMA MICHIRU)  
九州産業大学・経営学部・講師  
研究者番号: 50584041

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし